

(様式第10)

保健衛生大発第35号  
平成27年10月2日

東海北陸厚生局長 殿

学校法人 藤田学園  
開設者名 理事長 小野 雄一郎 印

藤田保健衛生大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成26年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
氏 名	学校法人藤田学園 理事長 小野 雄一郎

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

藤田保健衛生大学病院
------------

3 所在の場所

〒 470 - 1192	電話 (0562)93-2111
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 神経内科 3 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名等						
1 心臓血管外科	2 呼吸器外科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 精神科	<input checked="" type="checkbox"/> 小児科	<input checked="" type="checkbox"/> 整形外科	<input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科	<input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科	<input checked="" type="checkbox"/> 泌尿器科	7 産婦人科
<input checked="" type="checkbox"/> 産科	<input checked="" type="checkbox"/> 婦人科	<input checked="" type="checkbox"/> 眼科	<input checked="" type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科	<input checked="" type="checkbox"/> 放射線科	13 放射線診断科	
14 放射線治療科	<input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科	<input checked="" type="checkbox"/> 救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名等						
1 矯正歯科	2 小児歯科	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
5 1 床	床	床	床	1 3 8 4 床	1 4 3 5 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年 9月 1日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	506 人	24 人	529.6 人	看護補助者	173 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	14 人	2 人	15.5 人	理学療法士	53 人	臨床検査技師	112 人
薬 剤 師	82 人	5 人	85.1 人	作業療法士	30 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	12 人	臨 床 検 査 師	0 人
助 産 師	32 人	1 人	32.7 人	義肢装具士	0 人	臨 床 検 査 師	0 人
看 護 師	1,246 人	3 人	1,248.4 人	臨床工学技士	31 人	臨 床 検 査 師	0 人
准看護師	5 人	1 人	5.7 人	栄 養 士	0 人	臨 床 検 査 師	0 人
歯科衛生士	8 人	0 人	8.0 人	歯科技工士	2 人	臨 床 検 査 師	0 人
管理栄養士	18 人	3 人	19.7 人	診療放射線技師	98 人	臨 床 検 査 師	0 人
						その他	0 人
						あん摩マッサージ指圧師	0 人
						医療社会事業従事者	20 人
						その他の技術員	21 人
						事務職員	201 人
						その他の職員	95 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年 9月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	24 人	眼 科 専 門 医	9 人
外 科 専 門 医	51 人	耳鼻咽喉科専門医	9 人
精神科専門医	8 人	放射線科専門医	12 人
小児科専門医	13 人	脳神経外科専門医	17 人
皮膚科専門医	10 人	整形外科専門医	11 人
泌尿器科専門医	12 人	麻酔科専門医	6 人
産婦人科専門医	12 人	救急科専門医	10 人
		合 計	204 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	1,154 人	11 人	1,165 人
1日当たり平均外来患者数	2,022 人	134 人	2,156 人
1日当たり平均調剤数	3,284 剤		
必 要 医 師 数	245 人		
必 要 歯 科 医 師 数	8 人		
必 要 薬 剤 師 数	39 人		
必 要 ( 准 ) 看 護 師 数	656 人		

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要	
集中治療室	1,333.20 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	68床
			人工呼吸装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	109.66 m <sup>2</sup> 3台	心電計 (有)・無 心細動除去装置 (有)・無 ペースメーカー (有)・無 病床数 11床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	67 m <sup>2</sup>	
化学検査室	227.61 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、検体前処理装置、全自動電気泳動装置
細菌検査室	129.15 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	クリーンベンチ、嫌気チャンパー、薬剤感受性試験半自動装置
病理検査室	169.91 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	机上換気装置付き実験台、パラフィン浸透装置、包埋センター、マイクローム、凍結マイクローム
病理解剖室	105.76 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電動昇降式L型解剖台、死体用冷蔵庫
研究室	893.99 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
講義室	616.43 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	3室 収容定員 800人
図書室	2,312.05 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	12室 蔵書数 188,135冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	82.0 %	逆紹介率	58.9 %
算出 根拠	A：紹介患者の数		23,566人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		22,983人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		8,436人
	D：初診の患者の数		39,012人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	気管支鏡下リンパ節針穿刺検体によるフローサイトメトリー診断	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要			
超音波気管支鏡ガイド下で行う針生検検体を用いてフローサイトメトリー解析を用いてリンパ球の表面マーカーやmonoclonality等を計測することで、肺癌転移、リンパ腫診断および炎症性リンパ疾患の診断を行う			
医療技術名	プローブ型共焦点レーザー顕微鏡によるがん、間質性肺炎診断	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要			
内視鏡チャンネル挿入が可能なプローブ型共焦点レーザー顕微鏡を用いて気管支鏡下に生検を行わずに肺癌、間質性肺炎をはじめとする肺疾患の診断を行う			
医療技術名	傍腫瘍性抗神経抗体の測定	取扱患者数	110 人
当該医療技術の概要			
担癌患者神経症状の原因となる抗神経抗体の検出をウエスタンブロット法で実施			
医療技術名	抗中性糖脂質抗体の測定	取扱患者数	180 人
当該医療技術の概要			
種々の神経免疫性神経疾患の原因抗体としての本抗体の検出をサーマルプロテイング法で実施。			
医療技術名	抗アクアポリン4抗体の測定	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
視神経脊髄炎で高率に陽性となる抗アクアポリン4抗体の検出を免疫蛍光法で実施。			
医療技術名	先天性CMV感染患児に対するガンシクロビル治療	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
先天性CMV患児に対し、バルガンシクロビル内服による6か月間の治療を行う。			
医療技術名	ロボット支援下胃がん手術	取扱患者数	44 人
当該医療技術の概要			
胃がん術前診断 cStageIおよびIIに対しては先進医療の対象である。先進医療対象外の症例では自費診療となっている。近年、日本では手術数が増加傾向ではあるが、当院は日本のみならず世界でもトップレベルの症例数および治療成績を収めており、情報発信源となっている。			
医療技術名	ロボット支援下食道がん手術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
現状では自費診療にて行っている術式である。食道がん手術に関しても当院のロボット支援下手術は、日本のみならず世界でもトップレベルの症例数および治療成績を収めており、情報発信源となっている。			
医療技術名	ロボット支援下大腸切除術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
ロボット手術装置を用いた手術。解像度が高く3D画像から手術を行うため、根治術を保ち、患者のQOLを上げる手術である。			
医療技術名	ダヴィンチロボット支援肺癌手術	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要			
肺癌症例に対し、ダヴィンチ S サージカルシステムを使用し、肺葉切除+縦隔リンパ節郭清を本邦で初めて行い、現在まで28例に行った。多関節を有する器具は自由度が高く、胸腔内における剥離操作をより自然なものにする。これは、通常のVATSにおける直線的な器具での操作と比較して大きな利点であった。現在、多施設共同で評価を行っている。			
医療技術名	脊髄電気刺激療法	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
遷延性意識障害患者に対し、上位頸髄硬膜外に電極を留置して電気刺激を行うことで意識状態の改善を図る。			

医療技術名	アレルギーのオーダーメイド解析	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
食物アレルギーは原因物質の解明が治療に繋がるが、近年、発症機序として経皮感作や交叉反応性などが明らかとなり原因抗原を同定することは容易ではない。当院では、免疫プロット法やプロテオミクスの手法を用いたアレルギーのオーダーメイド解析を食物アレルギーの治療戦略の一つとして行っている。			
医療技術名	アレルギー性接触皮膚炎に対する成分パッチテスト	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
アレルギー性接触皮膚炎はパッチテストで原因物質を明らかにし接触を避ければ根治できる。しかしながら、原因となった製品中の成分を用いたパッチテストは物質の性質や毒性に精通していないと実施できない。当科では化粧品や日用品（抗菌ゲスクマットなど）、薬剤の成分パッチテストを実施し、難治性のアレルギー性接触皮膚炎の診断を行っている。			
医療技術名	悪性黒色腫以外の皮膚癌に対するセンチネルリンパ節生検術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検の有用性が近年明らかとなり、保険収載されることとなった。当院では、悪性黒色腫以外の皮膚癌（特に有棘細胞癌、乳房外Paget病）に対してもセンチネルリンパ節生検を行い、その有効性を検討している。			
医療技術名	皮膚癌および転移性皮膚癌に対するモーズペースト、亜鉛華でんぷんによる緩和医療	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
皮膚癌や転移性皮膚癌の患者において、日々増大する腫瘍を患者自身が目の当たりにしたり、出血や悪臭、感染症などを引き起こすため、患者のQOLが著しく低下する。当科では、そのような患者に対して、モーズペーストや亜鉛華デンプンを用いた局所治療を行い、出血や悪臭、感染予防などを積極的にを行い患者のQOLを維持するよう治療を試みている。			
医療技術名	皮膚ウイルス性疾患に対するLAMP法を用いた迅速診断の確立	取扱患者数	200 人
当該医療技術の概要			
皮膚のウイルス感染症は、帯状疱疹や単純疱疹が代表的であるが、接触皮膚炎や膿痂疹といった他の疾患との鑑別が時に困難となる。ウイルス感染症の確定診断には、血液検査が有用であるが診断確定までに日数を要するという欠点がある。当院では、LAMP(loop-mediated isothermal amplification assay)を用いて迅速にウイルス感染症の診断を行っている。			
医療技術名	皮膚疾患における心身医療外来	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要			
皮膚症状は患者自身が目に見えるため、心身医療からの治療介入も重要な要素を果たしている。当院では、アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、脱毛症などの患者に対して、心身医療を専門とした外来を行い治療を試みている。			
医療技術名	美容皮膚科領域におけるレーザー・光治療	取扱患者数	150 人
当該医療技術の概要			
各種シミやしわ・たるみなどの治療を希望する患者は年々増加傾向であるが、当該症状に対する治療は自費診療となる。当科では保険診療で治療が行える各種あざのレーザー治療以外にも、自費診療で行うQスイッチレーザー、Intense Pulsed Light、炭酸ガスレーザー治療（老人性色素斑、刺青、雀卵斑、脂漏性角化症、アクロコルドン、母斑細胞性母斑など）やラジオ波を用いた機器を使用した顔面のたるみ治療を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術（da Vinci）	取扱患者数	23 人
当該医療技術の概要			
従来の腹腔鏡下腎部分切除術は非常に高い技術が必要とされ、ごく限られた施設間においてのみ施行されていました。しかし、ロボット（da Vinci）手術の特徴である3-D画面や270度の可動域を持つ鉗子を用いることにより正確かつ安全な手術が可能となり、適応が拡大されています。東海地方では最多の症例数が安全に施行されています。			
医療技術名	da Vinci surgical systemを用いた子宮全摘術	取扱患者数	11 人
当該医療技術の概要			
手術支援ロボットは、内視鏡手術では困難な部位の手法も操作性が優れ、ストレスの少ない、より複雑で細やかな手術手法を可能とする次世代型の手術システムである。また3次元による正確な画像情報を取得できるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能とされている。そこで、近年増加傾向にある子宮筋腫に対して、da Vinci surgical systemを用いた子宮全摘術を確立し実践している。			
医療技術名	BTXの痙攣性発声障害患者を対象とした第Ⅱ/Ⅲ相試験	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要			
痙攣性発声障害患者にBTXを投与した際の有効性と安全性を検討する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	79 人	・膿疱性乾癬	3 人
・多発性硬化症	88 人	・広範脊柱管狭窄症	2 人
・重症筋無力症	62 人	・原発性胆汁性肝硬変	18 人
・全身性エリテマトーデス	452 人	・重症急性膵炎	16 人
・スモン	1 人	・特発性大腿骨頭壊死症	72 人
・再生不良性貧血	34 人	・混合性結合組織病	71 人
・サルコイドーシス	124 人	・原発性免疫不全症候群	11 人
・筋萎縮性側索硬化症	5 人	・特発性間質性肺炎	7 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	372 人	・網膜色素変性症	13 人
・特発性血小板減少性紫斑病	83 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	138 人	・肺動脈性肺高血圧症	12 人
・潰瘍性大腸炎	378 人	・神経線維腫症	17 人
・大動脈炎症候群	26 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	11 人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	1 人
・天疱瘡	20 人	・慢性血栓性肺高血圧症	24 人
・脊髄小脳変性症	78 人	・ライソゾーム病	10 人
・クローン病	345 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1 人
・悪性関節リウマチ	11 人	・脊髄性筋萎縮症	0 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	196 人	・球脊髄性筋萎縮症	3 人
・アミロイドーシス	19 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	68 人
・後縦靭帯骨化症	63 人	・肥大型心筋症	10 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	28 人	・ミトコンドリア病	2 人
・ウェゲナー肉芽腫症	19 人	・リンパ管筋腫症(LAM)	3 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	86 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	39 人	・黄色靭帯骨化症	4 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	124 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 退院調整加算
・ 特定機能病院入院基本料(一般 7 : 1、精神 10 : 1)	・ 新生児特定集中治療室退院調整加算
・ 臨床研修病院入院診療加算	・ 救急搬送患者地域連携紹介加算
・ 臨床研修病院入院診療加算 (歯科)	・ 総合評価加算
・ 救急医療管理加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ データ提出加算
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 救命救急入院料3
・ 診療録管理体制加算 1	・ 特定集中治療室管理料1
・ 急性期看護補助体制加算 (25 : 1)	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 看護職員夜間配置加算	・ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・ 療養環境加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 無菌治療室管理加算 2	・ 小児入院医療管理料1
・ 緩和ケア診療加算	・ 緩和ケア病棟入院料
・ 精神科応急入院施設管理加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ 精神科リエゾンチーム加算	・
・ 摂食障害入院医療管理加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 植込型除細動器移行期加算	・ 検体検査管理加算 (IV)
・ 高度難聴指導管理料	・ 遺伝カウンセリング加算
・ 糖尿病合併症管理料	・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 植込型心電図検査
・ がん患者指導管理料 1	・ 胎児心エコー法
・ がん患者指導管理料 2	・ 時間内歩行試験
・ がん患者指導管理料 3	・ ヘッドアップティルト試験
・ 外来緩和ケア管理料	・ 人工膀胱
・ 移植後患者指導管理料 (臓器移植後)	・ 皮下連続式グルコース測定
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 神経学的検査
・ 院内トリアージ実施料	・ 補聴器適合検査
・ ニコチン依存症管理料	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ がん治療連携計画策定料	・ 内服・点滴誘発試験
・ がん治療連携管理料	・ センチネルリンパ節生検 (併用)
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ センチネルリンパ節生検 (単独)
・ 薬剤管理指導料	・ 画像診断管理加算 1
・ 医療機器安全管理料 1	・ 遠隔画像診断
・ 医療機器安全管理料 2	・ ポジトロン断層撮影
・ 医療機器安全管理料 (歯科)	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 歯科治療総合医療管理料	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 在宅療養後方支援病院	・ 大腸CT撮影加算
・ 持続血糖測定器加算	・ 心臓MRI撮影加算
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	・ 外来化学療法加算 1
・ 検体検査管理加算 (I)	・ 無菌製剤処理料

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・網膜再建術
・運動器リハビリテーション料(I)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。) ・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・がん患者リハビリテーション料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・歯科口腔リハビリテーション料2	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・精神科作業療法	・経皮的冠動脈形成術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・医療保護入院等診療料	・経皮的大動脈弁置換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・経皮的中隔心筋焼灼術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び ・経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・透析液水質確保加算2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・一酸化窒素吸入療法	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・CAD/CAM冠	・補助人工心臓
・歯科技工加算	・経皮的大動脈遮断術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・ダメージコントロール手術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術	・生体部分肝移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 同種死体腎移植術	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 生体腎移植術	・ 病理診断管理加算 2
・ 膀胱水圧拡張術	・ 口腔病理診断管理加算 2
・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 人工尿道括約筋植込・置換術	・ 歯科矯正診断料
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	・ 顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る。）の手術前後における歯科矯正に係るもの）
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術	・
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算 1	・
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算 1	・
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算 1	・
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・
・ 輸血管理料 I	・
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・ 内視鏡手術用支援機器加算	・
・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・ 麻酔管理料（I）	・
・ 麻酔管理料（II）	・
・ 放射線治療専任加算	・
・ 外来放射線治療加算	・
・ 高エネルギー放射線治療	・
・ 1回線量増加加算	・
・ 強度変調放射線治療（IMRT）	・
・ 画像誘導放射線治療（IGRT）	・
・ 体外照射呼吸性移動対策加算	・
・ 直線加速器による放射線治療（定位放射線治療）	・



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
光干渉断層法による冠動脈びらんとプラーク破綻による急性心筋梗塞の機序と予後の検討	尾崎行男	循環器内科	¥1,560,000	補委 文部科学省
心臓植込み型デバイス遠隔モニタリングの生体信号データに基づく災害時の対策立案	渡邊英一	循環器内科	¥1,690,000	補委 文部科学省
胃癌におけるGenetic/epigeneticな異常の相互作用と予後との関連	田原 智満	消化管内科	¥1,430,000	補委 文部科学省
次世代レトロウイルスベクターによる難治性造血器腫瘍に対するT細胞レセプター改変T細胞輸注治療	恵美宣彦	血液内科学	¥5,000,000	補委 「研究開発施設共用等促進費補助金(橋渡し研究加速ネットワークプログラム)」研究開発委託費 シーズC
GvH反応とGvL反応の差を決定するHLA遺伝子及び非HLA遺伝子の解明	森島聡子	血液内科学	¥2,000,000	補委 文部科学省
同種造血幹細胞移植におけるHLAハプロタイプに基づく移植免疫反応の解析	森島聡子	血液内科学	¥1,950,000	補委 文部科学省
免疫遺伝情報に基づく非血縁移植統合データベースの構築と最適なドナー・さい帯血の選択	森島聡子	血液内科学	¥500,000	補委 厚生労働省
急性前骨髄球性白血病キメラ遺伝子BCOR-RARAによる白血病発症機序の解明	山本幸也	血液内科学	¥1,040,000	補委 科学研究費助成事業
全身性硬化症における爪床毛細血管の描出所見の臨床的意義に関する検討	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	¥700,000	補委 藤田学園教員研究助成費
リウマチ膠原病領域における感染の危険因子とIVIg投与	加藤 賢一	リウマチ・感染症内科	¥200,000	補委 藤田学園教員研究助成費
文部科学省私立大学等教育研究施設整備費補助(私立大学等改革総合支援事業)研究装置	湯澤由紀夫	腎内科	¥63,791,000	補委 文部科学省
腎移植時合併症の新規「早期診断・鑑別診断」バイオマーカーの開発	湯澤由紀夫	腎内科	¥1,040,000	補委 文部科学省
次世代診断チップの開発とその臨床診断への応用	湯澤由紀夫	腎内科	¥650,000	補委 文部科学省
アジア太平洋地域における膜性腎症の実態調査研究	湯澤由紀夫	腎内科	¥390,000	補委 文部科学省
ミッドカインによる内皮細胞由来の血管作動因子を介した血圧調整のメカニズムの解明	湯澤由紀夫	腎内科	¥260,000	補委 文部科学省
慢性腎臓病患者におけるテロメア消耗と環境因子の国際比較	湯澤由紀夫	腎内科	¥650,000	補委 文部科学省
糖尿病性腎症ならびに腎硬化症の診療水準向上と重症化防止にむけた調査・研究	湯澤由紀夫	腎内科	¥2,000,000	補委 厚生労働省
血管拡張因子(EETs)を介したミッドカイン(MK)の新規CKD進展機序の解明	佐藤和一	腎内科	¥1,950,000	補委 文部科学省
慢性腎臓病患者における慢性炎症惹起の解明と制御性T細胞を用いた新規治療戦略	佐藤和一	腎内科	¥130,000	補委 文部科学省
CD147による腎エネルギー代謝機構の解明と臓器相関に対する治療法の探究	佐藤和一	腎内科	¥260,000	補委 文部科学省
ミッドカインによる内皮細胞由来の血管作動因子を介した血圧調整のメカニズムの解明	佐藤和一	腎内科	¥975,000	補委 文部科学省
アジア太平洋地域における膜性腎症の実態調査研究	佐藤和一	腎内科	¥260,000	補委 文部科学省
慢性腎臓病患者におけるテロメア消耗と環境因子の国際比較	佐藤和一	腎内科	¥650,000	補委 文部科学省
メタボローム解析を用いた腎疾患における新規診断法の開発	尾崎武徳	腎内科	¥1,170,000	補委 文部科学省
IgA腎症の発症・進展における組織トランスグルタミナーゼの役割の解明	高橋和男	腎内科	¥2,600,000	補委 文部科学省

慢性腎臓病を合併するうつ病性心不全患者に対するフロセミドを対照としたトルバプタン	湯澤由紀夫	腎内科	¥700,000	補委	藤田学園教員助成費
透析患者の血管石灰化に対するビタミンKの効果に関する検討	長谷川みどり	腎内科	¥300,000	補委	藤田学園教員助成費
組織トランスグルタミナーゼ活性可視化によるIgA腎症の新規組織診断法の確立	高橋和男	腎内科	¥350,000	補委	藤田学園教員助成費
高純度EPA製剤の腎保護効果に関するオープンラベル多施設共同ランダム化並行群間比較	林 宏樹	腎内科	¥250,000	補委	藤田学園教員助成費
IgA腎症におけるメサングウム組織トランスグルタミナーゼ活性化機序の解明	高橋和男	腎内科	¥400,000	補委	公益財団法人愛知腎臓財団研究助成費
大規模肺炎 cohorts における急性腎傷害 (AKI: acute kidney injury) 発症と予後に関する前向き観察研究	多田将士	腎内科	¥200,000	補委	公益財団法人愛知腎臓財団研究助成費
医療・介護関連肺炎における喀痰検査、予後予測、耐性菌リスクに関する包括的研究	山中克郎	救急総合内科	¥1,820,000	補委	文部科学省
診療ガイドライン作成のためのシステマティックレビュー法の最新化のための調査研究	寺澤晃彦	救急総合内科	¥1,820,000	補委	文部科学省
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	武藤多津郎	神経内科	¥500,000	補委	厚生労働省
ミトコンドリア脳筋症MELASの脳卒中様発作に対するタウリン療法の開発	武藤多津郎	神経内科	¥1,000,000	補委	厚生労働省
スモンに関する調査研究	武藤多津郎	神経内科	¥1,200,000	補委	厚生労働省
精神神経疾患の病態解明と次世代型診断・治療・予防法開発に向けた研究拠点の形成	武藤多津郎	神経内科	¥4,000,000	補委	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
認知症性神経疾患に於ける脂質ラフト異常の実態解明とその新規是正法の開発	武藤多津郎	神経内科	¥1,560,000	補委	文部科学省
脂質ラフトを標的としたアストロサイト障害抑制の検討	朝倉邦彦	神経内科	¥1,430,000	補委	文部科学省
ギランバレー症候群患者血清中抗GM1抗体のラフト機能と構造への影響の解明	植田晃広	神経内科	¥1,170,000	補委	文部科学省
抗中性糖脂質抗体と脳脊髄根末梢神経炎の病態解明および抗体の意義	島さゆり	神経内科	¥2,600,000	補委	文部科学省
うつ病の予兆検知へ向けた身体活動時系列の臨床応用基盤に関する研究	北島剛司 (分担)	精神科	¥1,200,000	補委	文部科学省
古典的HLAタイプと統合失調症の関連解析	池田匡志	精神科	¥7,540,000	補委	文部科学省
全ゲノムSNPデータを基盤としたグリア遺伝子と統合失調症の関連解析	池田匡志	精神科	¥3,000,000	補委	文部科学省
大うつ病性障害におけるエンカプラムとパロキセリン徐放製剤のランダム化比較試験	岸 太郎	精神科	¥2,080,000	補委	文部科学省
日本人統合失調症を対象とした抗精神病薬のマルチプルネットワークメタ解析	松田勇紀	精神科	¥2,470,000	補委	文部科学省
統合失調症における遺伝要因構築の新規認識方法の開発ー失われた遺伝率を求めてー	岩田仲生	精神科	¥1,170,000	補委	文部科学省
遺伝環境統計学的相互作用大規模解析による気分障害の病態メカニズムの解明	岩田仲生	精神科	¥55,769,232	補委	文部科学省
脳プロ (理研再委託分)	岩田仲生	精神科	¥61,580,000	補委	文部科学省
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	吉川哲史	小児科	¥1,750,000	補委	日本医療研究開発機構
低アレルゲン化食品による経口免疫療法の確立	柘植郁哉	小児科	¥1,500,000	補委	厚生労働省
新生児タンデムマスキング対象疾患の診療ガイドライン改訂、診療の質を高めるための研究	伊藤哲哉	小児科	¥1,000,000	補委	岐阜大学
ミトコンドリア病診療の質を高める、レジストリシステムの構築、診断基準・診療ガイドラインの策定および診断システムの整備を行う臨床研究	伊藤哲哉	小児科	¥400,000	補委	千葉県こども病院

ロタウイルス脳炎、突然死例の病態説明：宿主とウイルス因子の包括的解析	吉川哲史	小児科	¥1,430,000	補委	文部科学省
MELAS患者由来のiPS細胞から分化誘導した神経細胞でのmtDNA修復の試み	松本祐嗣	小児科	¥1,950,000	補委	文部科学省
HHV-6Bと内側側頭葉てんかんの関連解析	河村吉紀	小児科	¥2,860,000	補委	文部科学省
先天性ピリミジン代謝異常症の診断・治療体制の確立	中島葉子	小児科	¥1,170,000	補委	文部科学省
直腸癌側方骨盤リンパ節転移の術前診断の妥当性に関する観察研究	前田耕太郎	下部消化管外科	¥300,000	補委	国立がん研究センター
慢性血栓性肺高血圧症の外科・カテーテル治療に関する多施設共同レジストリー研究	高木 靖	心臓血管外科・呼吸器外科	¥100,000	補委	文部科学省
分子免疫病理学的アプローチによるNotch経路解析-炎症性血管疾患治療への応用	小林 昌義	心臓血管外科・呼吸器外科	¥780,000	補委	日本学術振興会
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	廣瀬 雄一	脳神経外科	¥1,000,000	補委	厚生労働省
精神神経筋疾患の病態説明と次世代型診断・治療・予防法開発に向けた研究拠点の形成	廣瀬 雄一	脳神経外科	¥4,000,000	補委	文部科学省
血管新生抑制因子と低酸素反応阻害因子併用による新しい悪性グリオーマ科学療法の確率	林 拓郎	脳神経外科	¥1,200,000	補委	文部科学省
くも膜下性出血誘発性心筋障害における男女差の発生メカニズムに関する検討	稲樹 丈司	脳神経外科	¥650,000	補委	文部科学省
脳虚血における骨髄由来単球・マクロファージと自然免疫受容体(TLR4)の関与	伊藤 圭介	脳神経外科	¥1,820,000	補委	文部科学省
悪性グリオーマの化学療法剤temozolomideに対する耐性獲得機序の解明と薬剤感受性増強法の開発	廣瀬 雄一	脳神経外科	¥700,000	補委	藤田学園 研究助成費
顔面神経核神経細胞運動逆行性阻止への電位依存性Caチャンネルブロッカーの作用	長谷川 光広	脳神経外科	¥450,000	補委	藤田学園 研究助成費
高血圧性脳出血患者急性期においてアジールのサルタン投与が交感神経系過剰興奮によるストレス反応を抑制するか？	稲樹 丈司	脳神経外科	¥300,000	補委	藤田学園 研究助成費
小動物での頸動脈狭窄症モデル開発と抗血栓薬剤などの血管修復の及ぼす影響の解明	定藤 章代	脳神経外科	¥300,000	補委	藤田学園 研究助成費
閉塞部位とCT Perfusion(CTA)の結果からみた急性期脳虚血の血管内治療での治療成績と今後の治療戦略の展望	早川 基治	脳神経外科	¥300,000	補委	藤田学園 研究助成費
脳梗塞実験モデルにおける抗血小板剤の脳浮腫改善研究	川瀬 司	脳神経外科	¥150,000	補委	藤田学園 研究助成費
ヒトグリオーマ細胞における新世代DNAメチル化剤temozolomide(TMZ)耐性獲得の機序並びにTMZ耐性ヒトグリオーマ細胞に対する化学療法剤増感法の検討	安達 一英	脳神経外科	¥150,000	補委	藤田学園 研究助成費
引き抜きによる頭蓋内顔面神経軸索損傷モデルの確立	森谷 茂太	脳神経外科	¥100,000	補委	藤田学園 研究助成費
PCR法によるグリオーマ遺伝学的分類の試み	中江 俊介	脳神経外科	¥100,000	補委	藤田学園 研究助成費
多中性骨肉腫樹立細胞株を用いた病態説明と転移抑制のための実験的研究	山田 治基	整形外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
化粧品等のアレルギー確認方法確立に関する研究	松永 佳世子	皮膚科学	¥3,979,688	補委	日本医療研究開発機構
経皮感作による重篤な小麦アレルギーの病態説明ならびに予防法の確立	松永 佳世子	皮膚科学	¥14,641,096	補委	日本医療研究開発機構
皮膚適用の医薬品等成分による有害事象の機序説明・予測手法の開発のための研究	松永 佳世子	皮膚科学	¥2,769,231	補委	日本医療研究開発機構
新規動物試験代替法の開発、国際標準化及び普及促進に関する研究	松永 佳世子	皮膚科学	¥1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
医薬部外品及び化粧品配合成分の安全性確保のための規格等に関する研究	松永 佳世子	皮膚科学	¥2,318,182	補委	日本医療研究開発機構
加水分解コムギにより発症した経口小麦アレルギーの病態の解明および診断技術の確立	松永 佳世子	皮膚科学	¥130,000	補委	日本学術振興会
マージナルグラフトに対する移植前臓器保護・機能回復戦略に関する前臨床試験	日下 守	腎泌尿器外科	¥8,450,000	補委	日本学術振興会
子宮頸部発癌の分子機構説明とその結果の臨床応用	藤井多久磨	産科・婦人科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会

子宮頸部発癌の分子機構の解明とその結果の臨床応用	藤井多久磨	産科・婦人科	¥700,000	補委	日本私学学校振興共催事業
胎児発育不全合併妊娠に関わる早期診断マーカーの確立	多田 伸	産科・婦人科	¥500,000	補委	日本私学学校振興共催事業
妊娠高血圧症候群の発症前重症度予測に関する検討	西澤春紀	産科・婦人科	¥500,000	補委	日本私学学校振興共催事業
閉経後メタボリックシンドロームの治療戦略（エストロゲン製剤の臨床試験）	西尾永司	産科・婦人科	¥250,000	補委	日本私学学校振興共催事業
染色体アレイによる着床前診断法の確立	宮村浩徳	産科・婦人科	¥200,000	補委	日本私学学校振興共催事業
妊娠高血圧腎症妊婦におけるhigh temperature requirement A4の検討	伊藤真友子	産科・婦人科	¥100,000	補委	日本私学学校振興共催事業
卵巣摘出マウスを用いた閉経後更年期障害に対する補中益気湯投与の影響	野田佳照	産科・婦人科	¥100,000	補委	日本私学学校振興共催事業
PPAR $\gamma$ 作動薬による閉経後メタボリックシンドロームの治療戦略	石井梨沙	産科・婦人科	¥100,000	補委	日本私学学校振興共催事業
経膈超音波断層像による妊娠末期頸管腺領域像と、Real-time PCR法による頸管熟化に関するmRNA発現との関連 およびそれを用いた分娩進行と臨床的予後予測	南 元人	産科・婦人科	¥100,000	補委	日本私学学校振興共催事業
骨髄由来間葉系幹細胞を用いた感音難聴に対する新しい内耳再生療法の試み	吉岡哲志	耳鼻咽喉科	¥1,820,000	補委	文部科学省
随意運動介助型電気刺激を用いた咀嚼嚥下動作の再建	加賀谷齊	リハビリテーション科	¥1,170,000	補委	文部科学省
320-ADCTとマノメトリーを用いた嚥下手技の解析	柴田斉子	リハビリテーション科	¥130,000	補委	文部科学省
ロボットを用いたバランス練習におけるバランス能力とアングル/ヒップ戦略の変化	平野 哲	リハビリテーション科	¥390,000	補委	文部科学省
タブレット端末による画像診断の妥当性についての検討	服部 秀計	放射線科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
敗血症時の肝臓における好中球細胞外トラップ形成と抗凝固薬によるその阻害効果の検討	下村 泰代	麻酔科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
敗血症性急性腎不全に対するmesenchymal stem cell移植療法	武山直志	救急科	¥650,000	補委	日本学術振興会
原発性胆汁性肝硬変(PBC)における肝線維科の機序とサイトカインの検討	津田雅庸	救急科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
敗血症下における免疫異常と成体幹細胞動態解析：骨髄移植による再生治療の試み	服部友紀	救急科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
生活習慣病における潜在性心筋障害の病態と臨床的意義の解明	石井 潤一	臨床検査科	¥130,000	補委	文部科学省
化学物質の安全性と発がん性リスク評価のための短・中期バイオアッセイ系の開発	塚本徹哉	病理診断科	¥1,500,000	補委	厚生労働省
胃底腺の分化と胃底腺胃癌における原始主細胞の役割	塚本徹哉	病理診断科	¥1,700,000	補委	日本学術振興会
高齢者の口腔機能の維持・向上法に関する研究	松尾浩一郎	歯科	¥600,000	補委	国立長寿医療研究センター
食道がん周術期の口腔ケアと摂食機能訓練による早期経口摂取の獲得	松尾浩一郎	歯科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
摂食過程における生体機能と食塊物性の変化を追う	谷口 裕重	歯科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
有病高齢者の嚥下を誘発する咽頭電気刺激条件の解明	中川 量晴	歯科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
320列ADCTを用いた口腔機能評価のための基礎研究	金森 大輔	歯科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会

計 109

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入

すること。

(注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Ozaki Y	Department of Cardiology, Fujita Health University Hospital.	Fate and Clinical Significance of Angiographically Visible Stent Malapposition (peri-stent contrast staining) after Drug-Eluting Stent Implantation: A Long-Term Clinical Follow-up Study	AsiaIntervention 1(1):48-56, 2015
2	Ozaki Y	Department of Cardiology, Fujita Health University Hospital.	Thin Cap Fibroatheroma Defined as Lipid Core Abutting Lumen (LCAL) on Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound - Comparison With Optical Coherence Tomography and Correlation With Peri-Procedural Myocardial Infarction	Circulation journal 79(4):808-17, 2015
3	Shiino K	Department of Cardiology, Fujita Health University School of Medicine.	Usefulness of right ventricular basal free wall strain by two-dimensional speckle tracking echocardiography in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension	International Heart Journal 56(1):100-4, 2015
4	Yamamoto M	Department of Cardiology, Fujita Health University School of Medicine.	Association between the quality of life and asymptomatic episodes of paroxysmal atrial fibrillation in the J-RHYTHM II study.	Journal of Cardiology 64(1):64-9, 2014
5	Watanabe E	Department of Cardiology, Fujita Health University School of Medicine	Sudden cardiac arrest recorded during Holter monitoring: prevalence, antecedent electrical events, and outcomes.	Heart Rhythm 11(8):1418-25, 2014
6	Ozaki Y	Department of Cardiology, Fujita Health University Hospital.	We Should Use the OCT-Based Clinical Term "Acute Coronary Syndrome with Intact Fibrous Cap (ACS-IFC)" Rather Than the Pathology Term "Plaque Erosion"	Journal of the American College of Cardiology 63(24):2745, 2014
7	Muramatsu T	Department of Cardiology, Fujita Health University Hospital, Toyoake, Japan.	1-year Clinical Outcomes of Diabetic Patients Treated With Everolimus-Eluting Bioresorbable Vascular Scaffolds: A Pooled Analysis of the ABSORB and the SPIRIT Trials.	JACC. Cardiovascular interventions 7(5):482-93, 2014
8	Muramatsu T	Department of Cardiology, Fujita Health University Hospital	Reproducibility of intravascular ultrasound radiofrequency data analysis (Virtual Histology) with a 45-MHz rotational imaging catheter in ex vivo human coronary arteries	Journal of cardiology 65(2):134-42, 2015
9	Ohtsuki M	Fujita Health University School of Medicine	Large-scale team-based learning for interprofessional education in medical and health sciences	Medical teacher 36(5):452-3, 2014

10	Kawai H	Department of Cardiology, Fujita Health University	Major bleeding complications related to combined antithrombotic therapy in atrial fibrillation patients 12 months after coronary artery stenting	Journal of cardiology 65(3):197-202, 2015
11	Kawai H	Department of Cardiology, Fujita Health University.	Adding Coronary Computed Tomography Angiography to Invasive Coronary Angiography Improves Prediction of Cardiac Events	Circulation journal 78(11):2735-40, 2014
12	Ito H	Department of Cardiology, Fujita Health University,	Characteristics of plaque progression detected by serial coronary computed tomography angiography.	Heart Vessels 29(6):743-9, 2014
13	Muramatsu T	Department of Cardiology, Fujita Health University Hospital,	Serial 2-Dimensional and 3-Dimensional Optical Coherence Tomography Assessment of Overhanging Struts of Drug-Eluting Absorbable Metal Scaffold. "DREAMS" for Jailed Side Branch?	JACC. Cardiovascular interventions 7(5):575-6, 2014
14	Yatsuya H	Department of Public Health, Fujita Health University School of Medicine.	Global trend in overweight and obesity and its association with cardiovascular disease incidence.	Circulation journal 78(12):2807-18, 2014
15	Muramatsu T	Department of Cardiology, Fujita Health University Hospital.	European Society of Cardiology (ESC) Congress Report From Barcelona 2014	Circulation journal 78(11):2610-8, 2014
16	Harada M	Department of Cardiology, Fujita Health University School of Medicine.	Role of inflammation in atrial fibrillation pathophysiology and management	Circulation journal 79(3):495-502, 2015
17	Yamaguchi T	Division of Respiratory Medicine and Clinical Allergy, Department of Internal Medicine, Fujita Health University	Pharmacokinetics of gefitinib in a patient with non-small cell lung cancer undergoing continuous ambulatory peritoneal dialysis.	Case reports in oncology 8(1):78-82, 2015
18	Nakagawa Y	Department of Gastroenterology, School of Medicine, Fujita Health University	Relationship between expression of onco-related miRNAs and the endoscopic appearance of colorectal tumors.	International journal of molecular sciences 16(1):1526-43, 2015
19	Ohmiya N	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Obscure gastrointestinal bleeding: diagnosis and treatment	Digestive Endoscopy 27(3):285-94, 2015

20	Tahara T	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	DNA methylation status of epithelial-mesenchymal transition (EMT)- related genes is associated with severe clinical phenotypes in ulcerative colitis (UC)	PLoS One 9(10):e107947, 2014
21	Ohmiya N	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Classification of Intestinal Lymphangiectasia with Protein-Losing Enteropathy: White Villi Type and Non-White Villi Type.	Digestion. 90(3):155-66, 2014
22	Tahara T	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Association between common genetic variants in pre-microRNAs and prognosis of advanced gastric cancer treated with chemotherapy	Anticancer Res 34(9):5199- 204, 2014
23	Tahara T	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Change in DNA methylation patterns of SLC6A4 gene in the gastric mucosa in functional dyspepsia	PLoS One. 9(8):e105565, 2014
24	Tahara T	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Fusobacterium detected in colonic biopsy and clinicopathological features of ulcerative colitis in Japan	Digestive Diseases And Sciences 60(1):205-10, 2015
25	Tahara T	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	A case of Plummer-Vinson syndrome showing rapid improvement of dysphagia and esophageal web after two weeks of iron therapy	Case Rep Gastroenterol 8(2):211-5, 2014
26	Tahara T	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Effect of RANTES gene promoter genotypes in patients with ulcerative colitis.	Biomed Rep. 2(4):602-606, 2014
27	Tahara T	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Heat-shock protein 70-2 BB genotype is associated with reduced risks of the steroid-dependent and refractory phenotypes of ulcerative colitis.	Biomed Rep. 2(4):555-558, 2014
28	Ohmiya N	Department of Gastroenterology, Fujita Health University	Steroid-resistant Cronkhite-Canada syndrome successfully treated by cyclosporine and azathioprine	Journal of Clinical Gastroenterology 48(5):463-4, 2014
29	Okubo M	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Light blue crest and ridge/villous patterns in the uninvolved gastric antrum by magnifying NBI endoscopy correlate with serum pepsinogen and gastric cancer occurrence	Hepato- gastroenterology 61(130):525-8, 2014

30	Tahara T	Department of Gastroenterology, Fujita Health University School of Medicine	Pathogenesis of CpG island methylator phenotype-positive colorectal cancers; role of genetic alteration and colonic flora	Epigenomics 6(3):249-51, 2014
31	Yoshioka K	Department of Liver, Biliary Tract and Pancreas Diseases, Fujita Health University	Measurement of liver stiffness as a non-invasive method for diagnosis of non-alcoholic fatty liver disease.	Hepatology Research 45(2):142-51, 2015
32	Nakaoka K	Department of Liver, Biliary Tract and Pancreas Diseases, Fujita Health University	PNPLA3 I148M associations with liver carcinogenesis in Japanese chronic hepatitis C patients.	Springerplus. 4:83, 2015
33	Yanada M	Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine	Allogeneic hematopoietic cell transplantation for acute myeloid leukemia during first complete remission: a clinical perspective.	International journal of Hematology 101(3):243-54, 2015
34	Mizuta S	Department of Hematology, Fujita Health University Hospital	Pretransplant administration of imatinib for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in patients with BCR-ABL-positive acute lymphoblastic leukemia	Blood 123(15):2325-32, 2014
35	Okamoto A	Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine	A varicella outbreak in B-cell lymphoma patients receiving rituximab-containing chemotherapy	Journal Of Infection And Chemotherapy 20(12):774-7, 2014
36	Inaguma Y	Department of Hematology, School of Medicine, Fujita Health University	Construction and molecular characterization of a T-cell receptor-like antibody and CAR-T cells specific for minor histocompatibility antigen HA-1H	Gene Ther 21(6):575-84, 2014
37	Yamamoto Y	Department of Hematology, Fujita Health University	Clarifying the impact of polycomb complex component disruption in human cancers.	Mol Cancer Res. 12(4):479-84, 2014
38	Takahashi K	Department of Nephrology, Fujita Health University School of Medicine	Enzymatic Sialylation of IgA1 O-Glycans: Implications for Studies of IgA Nephropathy	PLoS One. 9(6):e99026, 2014
39	Hasegawa M	Department of Nephrology, Fujita Health University School of Medicine	Urinary neutrophil gelatinase-associated lipocalin as a predictor of cardiovascular events in patients with chronic kidney disease.	Heart and Vessels 30(1):81-8, 2015

40	Takahashi H	Department of Nephrology, Fujita Health University School of Medicine,	Geriatric nutritional risk index accurately predicts cardiovascular mortality in incident hemodialysis patients.	Journal of Cardiology 64(1):32-6, 2014
41	Hasegawa M	Department of Nephrology, Fujita Health University School of Medicine	Recurrent IgA nephropathy complicated with Crohn's disease after renal transplantation	Clinical Experimental Nephrology Case Report 3:167-171, 2014
42	Hiratsuka I	Division of Endocrinology and Metabolism, Fujita Health University	Utility of glucagon stimulation test in type 1 diabetes after pancreas transplantation.	Transplantation proceedings 46(3):967-9, 2014
43	Asakura K	Department of Neurology, Fujita Health University School of Medicine	Targeting of aquaporin 4 into lipid rafts and its biological significance	Brain Research 1583:237-44, 2014
44	Asakura K	Department of Neurology, Fujita Health University	Lipid Rafts And Their Possible Involvements In Neuroimmunological Disorders: new research arena	Frontiers in Bioscience-Landmark 20:303-13, 2015
45	Hikichi C	Department of Neurology, Fujita Health University School of Medicine	Deep Neck Inflammatory Diseases: Implication of Cervical Magnetic Resonance Imaging for Early Diagnosis	Austin Journal of Clinical Neurology 2(2): 1024, 2015
46	Hirota S	Department of Neurology, Fujita Health University School of Medicine	Voriconazole-responsive Disseminated Nodular Lesions on Spinal MRI	Internal Medicine Intern Med. 54(2):215-8, 2015
47	Ikeda M	Department of Psychiatry Fujita Health University School of Medicine	Genetic overlap between antipsychotic response and susceptibility to schizophrenia.	Journal of Clinical Psychopharmacology 35(1):85-8, 2015
48	Kishi T	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Efficacy and Tolerability of Histamine-2 Receptor Antagonist Adjunction of Antipsychotic Treatment in Schizophrenia: A Meta-analysis of Randomized Placebo-controlled Trials	Pharmacopsychiatry 48(1):30-6, 2015
49	Kishi T	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Early Prediction of Blonanserin Response in Japanese Patients with Schizophrenia	Neuropsychiatric Disease and Treatment 10:1861-6, 2014

50	Kishi T	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	The position of blonanserin as a treatment for schizophrenia.	Asia-Pacific Psychiatry 6(4):462, 2014
51	Kishi T	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Aripiprazole for the management of schizophrenia in the Japanese population: a systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials.	Neuropsychiatric Disease and Treatment 11:419-34, 2015
52	Kishi T	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Iminodibenzyl class antipsychotics for schizophrenia: a systematic review and meta-analysis of caripramine, clocapramine, and mosapramine	Neuropsychiatric Disease and Treatment 10:2339-51, 2014/12
53	Kishi T	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Azapirone 5-HT1A receptor partial agonist treatment for major depressive disorder: systematic review and meta-analysis	Psychological Medicine 44(11):2255-69, 2014
54	Matsunaga S	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Combination therapy with cholinesterase inhibitors and memantine for Alzheimer's disease: a systematic review and meta-analysis.	International Journal Of Neuropsychopharmacology 18(5). pii: pyul15, 2014
55	Saito T	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Replication and cross-phenotype study based upon schizophrenia GWASs data in the Japanese population: support for association of MHC region with psychosis.	American journal of medical genetics. Part B, Neuropsychiatric genetics 165B(5):421-7, 2014
56	Shimasaki A	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	A genetic variant in 12q13, a possible risk factor for bipolar disorder, is associated with depressive state, accounting for stressful life events	Plos One 9(12):e115135, 2014
57	Ikeda M	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Variant GADL1 and response to lithium in bipolar I disorder.	New England Journal of Medicine 370(19):1856-7, 2014
58	Oya K	Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine	Efficacy and tolerability of minocycline augmentation therapy in schizophrenia: a systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials.	Human psychopharmacology Clinical and Experimental 29(5):483-91, 2014
59	Yoshikawa T	Department of Pediatrics, Fujita Health University School of Medicine	Direct detection of human herpesvirus 6B by the LAMP method using newly developed dry-reagents.	Journal of virological methods 201:65-7, 2014

60	Fujino M	Department of Pediatrics, Fujita Health University	Inflammation aggravates heterogeneity of ventricular repolarization in children with Kawasaki disease.	Pediatric Cardiology 35(7):1268-72, 2014
61	Yamamoto Y	Department of Pediatrics, Fujita Health University School of Medicine	The kinetics of urinary shedding of BK virus in children with renal disease	Microbio Immunol 59(1):37-42, 2015
62	Tsuge I	Department of Pediatrics, Fujita Health University	Identification of novel FATP4 mutations in a Japanese patient with ichthyosis prematurity syndrome	Human Genome Variation 2, Article number: 15003, 2015
63	Tokoro T	Department of Surgery, Fujita Health University	Malignant transformation of hepatocellular adenoma over a decade	BMJ case reports pii: bcr2014205261, 2014
64	Morita M	Department of Surgery, Fujita Health University School of Medicine	Identification of microRNAs involved in acute rejection and spontaneous tolerance in murine hepatic allografts.	Scientific Report 4:6649, 2014
65	Tsuji S	Department of Surgery, Fujita Health University School of Medicine	TAC1 deficiency enhances antibody avidity and clearance of an intestinal pathogen.	The Journal of Clinical Investigation 124(11):4857-66, 2014
66	Hayashi C	Department of Surgery, Fujita Health University	Effects of edaravone, a radical scavenger, on hepatocyte transplantation	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 21(12):919-24, 2014
67	Suda K	Division of Upper GI, Department of Surgery, Fujita Health University	Potential advantages of robotic radical gastrectomy for gastric adenocarcinoma in comparison with conventional laparoscopic approach: a single institutional retrospective comparative cohort study	Surgical Endoscopy 29(3):673-85, 2015
68	Man-I M	Division of Upper GI, Department of Surgery, Fujita Health University	Totally intracorporeal delta-shaped B-I anastomosis following laparoscopic distal gastrectomy using the Tri-Staple™ reloads on the manual Ultra handle: a prospective cohort study with historical controls.	Surgical Endoscopy 2015
69	Sato H	Department of Surgery, Fujita Health University School of Medicine	Clinical characteristics of ischemic colitis after surgery for colorectal cancer	Surgery Today 44(6):1090-6, 2014

70	Maeda K	Department of Surgery, Fujita Health University School of Medicine	When is local excision appropriate for "early" rectal cancer?	Surgery Today 44(11):2000-14, 2014
71	Sato H	Department of Surgery, Fujita Health University School of Medicine	Endoscopic mucosal resection of a rectal malakoplakia in a healthy adult.	Digestive Endoscopy 26(6):749-51, 2014
72	Sato H	Department of Surgery, Fujita Health University, School of Medicine	Endoscopic Removal of Pedunculated Leiomyoma of the Sigmoid Colon	Viszeralmedizin 30(6):427-429, 2014
73	Katsuno H	Department of Surgery, Fujita Health University	Novel antimesenteric functional end-to-end handsewn (Kono-S) anastomoses for Crohn's disease: a report of surgical procedure and short-term outcomes	Digestive surgery 32(1):39-44, 2015
74	Suda T	Division of Cardiothoracic Surgery, Fujita Health University School of Medicine	Dual-port thymectomy using subxiphoid approach.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery 62(9):570-2, 2014
75	Suda T	Division of Cardiothoracic Surgery, Fujita Health University School of Medicine	Single-port thymectomy using subxiphoid approach.	Ann Thorac Surg. 2014, 97, 718- 9, CTS net. 2015. July.
76	Hibi Y	Department of Endocrine Surgery, Fujita Health University School of Medicine	Pheochromocytoma as the first manifestation of MEN2A with RET mutation S891A: report of a case.	Surgery Today 44(11):2195- 200, 2014
77	Hibi Y	Department of Endocrine Surgery, Fujita Health University School of Medicine	Unmasked renal impairment and prolonged hyperkalemia after unilateral adrenalectomy for primary aldosteronism coexisting with primary hyperparathyroidism: report of a case.	Surgery Today 45(2):241-6, 2015
78	Inamasu J	Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital	Hemispheric differences in the outcomes of traumatic acute subdural hematoma patients Hemispheric differences in the surgical outcomes of patients with traumatic acute subdural hematoma.	Journal of Negative Results in BioMedicine 13(1):10, 2014
79	Yamada Y	Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital	No Overtaking! Take a Safe Trip to Aneurysm	Austin Journal of Cerebrovascular Disease &Stroke 1(2):1009, 2014

80	Adachi K	Department of Neurosurgery, School of Medicine, Fujita Health University	A review of cavernous malformations with trigeminal neuralgia.	Clinical Neurology and Neurosurgery 125:151-4, 2014
81	Inamasu J	Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital	Cardiac wall motion abnormality after bleeding from vertebral artery aneurysms	Clinical Autonomic Research 24(6):259-64, 2014
82	Inamasu J	Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital	Outcomes of surgical versus endovascular repair of unruptured brain aneurysms in individuals aged $\geq 75$ years.	Geriatrics & Gerontology International 14(4):858-63, 2014
83	Hayashi T	Department of Neurosurgery, Fujita Health University, School of Medicine	Experimental study on the viscosity and adhesive performance of exogenous liquid fibrin glue.	Neurol Med Chir (Tokyo) 54(11):895-900, 2014
84	Inamasu J	Department of Neurosurgery, Fujita Health University School of Medicine	Are there differences between Takotsubo cardiomyopathy and neurogenic stunned myocardium? A prospective observational study	International Journal of Cardiology 177(3):1108-10 2014
85	Inamasu J	Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital	Infected epidural hematoma of the lumbar spine associated with invasive pneumococcal disease.	Asian journal of neurosurgery 10(1):58, 2015
86	Inamasu J	Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital	Relationship between systolic blood pressures measured in emergency department and outcomes in patients with subarachnoid hemorrhage	Acute Medicine and Surgery 2(1):35-39, 2015
87	Tanoue S	Department of Neurosurgery, Fujita Health University School of Medicine	Does dabigatran increase the risk of delayed hematoma expansion in a rat model of collagenase-induced intracerebral hemorrhage?	J Stroke Cerebrovasc Dis 24(2):374-80, 2015
88	Yamada Y	Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital	Role of endoscopy in multi-modality monitoring during aneurysm surgery: a single centre experience with 175 consecutive unruptured aneurysms	Asian journal of neurosurgery 10(1):52, 2015
89	Hayakawa M	Department of Neurosurgery, School of Medicine, Fujita Health University,	Detection of Pulsation in Unruptured Cerebral Aneurysms by ECG-Gated 3D-CT Angiography (4D-CTA) with 320-Row Area Detector CT (ADCT) and Follow-up Evaluation Results: Assessment Based on Heart Rate at the Time of Scanning.	Clinical Neuroradiology 24(2):145-50, 2014

90	Hasegawa M	Department of Neurosurgery, Fujita Health University Hospital	Neuroepithelial cyst of the fourth ventricle	International Journal of Cardiology 31(1):155-9, 2015
91	Shimoyama T	Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fujita Health University.	Cortical bone remodeling in parosteal osteosarcoma mimicking medullary involvement: a case with the difficulty in pre-surgical staging.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine 233(3):165-9, 2014
92	Yagami A	Department of Dermatology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake.	Allergic contact dermatitis caused by 3-o-ethyl-L-ascorbic acid (vitamin C ethyl).	Contact Dermatitis 70(6):376-7, 2014
93	Akita H	Department of Dermatology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake.	The clinical experience and efficacy of bipolar radiofrequency with fractional photothermolysis for aged Asian skin	Experimental Dermatology 23(1):37-42, 2014
94	Arima M	Department of Dermatology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake.	A Case of Malignant Melanoma with In-Transit Metastasis That Responded to Intravenous Infusion of Interferon- $\beta$ .	Case Rep Dermatol. 6(1):74-9, 2014
95	Yamakita T	Department of Dermatology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake.	Successful treatment of multiplex alopecia areata using transactional analysis: a case report.	Case Rep Dermatol. 6(3):248-52, 2014
96	Numata S	Department of Dermatology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake.	Analysis of facial skin-resident microbiota in Japanese acne patients.	Dermatology. 228(1):86-92, 2014
97	Kobayashi T	Department of Dermatology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake.	Concurrent reactivation of herpes simplex and varicella zoster viruses confirmed by the loop-mediated isothermal amplification assay.	Case Rep Dermatol. 6(1):5-9, 2014
98	Kawai A	Department of Urology, Fujita Health University School of Medicine	Serum liver-type fatty acid-binding protein predicts recovery of graft function after kidney transplantation from donors after cardiac death.	Clinical transplantation 28(6):749-54, 2014
99	Sasaki H	Department of Urology, Fujita Health University	Nutritional status in Japanese renal transplant recipients with long-term graft survival.	Transplantation Proceedings 47(2):367-72, 2015

100	Ito T	Department of Organ Transplant Surgery, Fujita Health University, School of Medicine	A novel screening test for detecting graft thrombosis after pancreatic transplantation using contrast-enhanced ultrasonography with sonazoid.	Transplantation Proceedings 46(6):1917-9, 2014
101	Ito T	Department of Organ Transplant Surgery, Fujita Health University, School of Medicine	Single-institution outcomes in the first year of pancreas transplantation from brain-dead donors.	Transplantation Proceedings 46(3):970-2, 2014
102	Kenmochi T	Department of Organ Transplant Surgery, Fujita Health University, School of Medicine	Organ donation from brain-dead and circulatory-dead donors: single-institution experiences.	Transplantation Proceedings 46(4):1051-3, 2014
103	Ichikawa R	Department of Obstetrics and Gynecology, Fujita Health University School of Medicine	Retrospective comparative study of irinotecan and pegylated liposomal doxorubicin for platinum-resistant or -refractory epithelial ovarian and primary peritoneal carcinoma.	Archives of Gynecology and Obstetrics 290(5):979-84, 2014
104	Minami Y	Department of Obstetrics and Gynecology, Fujita Health University	Relationship between detection of the cervical gland area during the late third trimester and necessity for induction of labor to prevent post-term delivery	Journal of Medical Ultrasonics 41(4):463-471, 2014
105	Tanikawa A	Department of Ophthalmology, Fujita Health University School of Medicine	Intravitreal triamcinolone-illuminated cataract surgery for patients with dense vitreous hemorrhage.	JAMA ophthalmology 133(1):93-4, 2015
106	Onogi K	Department of Rehabilitation Medicine I, School of Medicine, Fujita Health University	Immediate effectiveness of balloon dilatation therapy for patients with dysphagia due to cricopharyngeal dysfunction.	Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science 5:87-92, 2014
107	Kenichi O	Department of Rehabilitation Medicine I, School of Medicine, Fujita Health University	Reliability and minimal detectable change of Quantified Paralysis performance Assessment(QPPA) using a three-dimensional motion analysis device	Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science 5:109-116, 2014
108	Saitoh E	Department of Rehabilitation Medicine I, School of Medicine, Fujita Health University	Twenty Years of Trans-disciplinary Approach Development for Dysphagia Rehabilitation in Japan	Dysphagia 30(1):102-3, 2015
109	Hirano S	Department of Rehabilitation Medicine I, School of Medicine, Fujita Health University	Comparison between gait-assisting robot (WPAL) and bilateral knee-ankle-foot orthoses with a medial single hip joint in gait reconstruction for patients with paraplegia	Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science 6:21-26, 2015

110	Toda F	Department of Rehabilitation Medicine I, School of Medicine, Fujita Health University	Effect of swallowing rounds on the outcome of dysphagic patients	Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science 6:50-55, 2015
111	Hattori H	Department of Radiology, School of Medicine, Fujita Health University	Development of a Digital Imaging and Communications in Medicine Viewer with an Input Device for Paging in Multislice Computed Tomography	Asian Journal of Computer and Information Systems 2(6):138-144 2014
112	Inui Y	Department of Radiology, Fujita Health University School of Medicine	Comparison of 123I-MIBG myocardial scintigraphy, brain perfusion SPECT, and voxel-based MRI morphometry for distinguishing between dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease.	Annals of Nuclear Medicine 28(8):796-804, 2014
113	Murayama K	Department of Radiology and Neurosurgery, Fujita Health University	Voxel-based correlation between whole-brain CT perfusion with 320-row area detector ct and iodine 123 iodoamphetamine brain perfusion spect in patients with cerebrovascular disease.	Journal of Computer Assisted Tomography 38(5):639-46, 2014
114	Banno T	Department of Radiology, Fujita Health University School of Medicine	Hybrid repair of an aortocaval fistula and inferior vena cava external compression caused by an inflammatory aortoiliac aneurysm: A case study.	SpringerPlus 3:476, 2014
115	Hanaoka R	Department of Radiology, School of Medicine Fujita Health University	Efficacy and safety of percutaneous transhepatic portal embolization with dehydrated ethanol	The Open Medical Imaging Journal 8:22-28, 2014
116	Higashiguchi T	Department of Surgery and Palliative Medicine, Fujita Health University School of Medicine	A Clinical Study of the Immediate and Delayed Effects of New Dietary Supplements on Exercise-Related Fatigue and the Inhibition of Delayed-Onset Muscle Soreness	Annals of Public Health and Research 1(2):1010, 2014
117	Hashiba M	Department of Emergency & Acute Intensive Care Medicine, Fujita Health University	Neutrophil extracellular traps in patients with sepsis	Journal of Surgical Research 194(1):248-54, 2015
118	Kano H	Department of Emergency & Acute Intensive Care Medicine, Fujita Health University	Successful treatment of septic shock due to New Delhi metallo- $\beta$ -lactamase-1-producing Klebsiella pneumoniae in a patient transferred from India to Japan	Acute Medicine & Surgery 1(3):181-185, 2014
119	Ishii J	Department of Joint Research Laboratory of Clinical Medicine, Fujita Health University School of Medicine.	Multimarker approach to risk stratification for long-term mortality in patients on chronic hemodialysis.	Circulation journal 79(3):656-63, 2015

120	Tsukamoto T	Department of Diagnostic Pathology, Fujita Health University School of Medicine	Role of Helicobacter pylori in Gastric Neoplasia.	Current infectious disease reports 16(5):402, 2014
121	Urano M	Department of Diagnostic Pathology, Fujita Health University, School of Medicine	Characterization of mammary analogue secretory carcinoma of the salivary gland: discrimination from its mimics by the presence of the ETV6-NTRK3 translocation and novel surrogate markers.	Human Pathology 46(1):94-103, 2015
122	Nakagawa K	Department of Dentistry, School of Medicine, Fujita Health University	Efficacy of a novel training food based on the process model of feeding for mastication and swallowing — A preliminary study in elderly individuals living at a residential facility —	Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science 5:72-78, 2014
123	Matsuo K	Department of Dentistry, School of Medicine, Fujita Health University	Effects of Food Consistencies and Mastication on Bolus Transport and Swallow Initiation in Individuals with Hemispheric Stroke	Journal of Neurology & Neurophysiology 6(1):269, 2015
124	Kobayashi Y	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Fujita Health University School of Medicine	Local recurrence of sclerosing mucoepidermoid carcinoma with eosinophilia in the upper lip: a case report.	Journal of medical case reports 9:41, 2015
125	Hosoda T	Department of Joint Research Laboratory of Clinical Medicine, Fujita Health University School of Medicine.	Emergence of Salmonella strain that produces IMP-1-type metallo- $\beta$ -lactamase in a Japanese patient.	Jpn J Infect Dis. 68(1):75-76, 2015
126	Inamoto Y	Department of Rehabilitation Medicine I, School of Medicine, Fujita Health University	Effectiveness and applicability of a specialized evaluation exercise-chair in posture adjustment for swallowing	Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science 5:33-39, 2014
127	Hayashi T	Department of Pharmacy, Fujita Health University Hospital; Faculty of Pharmacy, Meijo University	Influence of serum albumin levels during opioid rotation from morphine or oxycodone to fentanyl for cancer pain.	Biological & Pharmaceutical Bulletin 37(12):1860-5, 2014
128	Kobayashi M	Department of Radiology, Fujita Health University Hospital	Evaluation of organ doses and effective dose according to the ICRP publication 110 reference male/female phantom and the modified ImPACT CT patient dosimetry	Journal of applied clinical medical physics 15(5):4823, 2014
129	Ikeda M	Department of Nursing, Fujita Health University Hospital	Effective elimination of contaminants after oral care in elderly institutionalized individuals.	Geriatr Nurs 35(4):295-9, 2014

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

(注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

(注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	湯澤由紀夫	藤田保健衛生大学医学部腎内科学	慢性腎臓病に対する食事療法基準(成人) 6食塩	慢性腎臓病に対する食事療法基準2014年版:6, 2014
2	湯澤由紀夫 高橋和男	藤田保健衛生大学医学部腎内科学	I 疾患概念・定義(病因・病態生理)	エビデンスに基づくIgA腎症診療ガイドライン2014;厚労省難治性疾患克服研究事業振興性腎障害に関する調査研究班編集: v-x, 1-20, 2014
3	湯澤由紀夫	藤田保健衛生大学医学部腎内科学	【急性腎障害:診断と治療の進歩】 特殊な病態と治療法 急性腎障害と肺	日本内科学会雑誌103(5):1116-1122, 2014
4	山田治基	藤田保健衛生大学医学部整形外科	第14章 第2節 変形性膝関節症の生物学的マーカー ~バイオセンサの先端科学技術と新製品への応用開発~	バイオセンサの先端科学技術と新製品への応用開発. 第14章2節. 2014
5	山田治基	藤田保健衛生大学医学部整形外科	【人工関節置換術-最新の知見】 手術手技 低侵襲アプローチ Porous tantalum臼蓋コンポーネントを用いた小侵襲手術(MIS) anterolateral-supine approachによるMIS-人工股関節全置換術の術後成	別冊整形外科. 65:83-85, 2014
6	森田充浩	藤田保健衛生大学医学部整形外科	【関節破壊のバイオマーカー】 (解説/特集)	KeynoteR・A. 2(2):9-12, 2014
7	加藤 誠	藤田保健衛生大学医学部整形外科	高度肥満女性症例に対しMIS-DAAによるTHAを施行した1例	東海関節. 6:107-109, 2014
8	佐野 晶代	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	最近経験したラテックスアレルギーの3例	日本ラテックスアレルギー研究会会誌. 18巻2号:42-47, 2014
9	岩田 洋平	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	「実践皮膚外科手技」~ビギナーからエキスパートまでの皮膚外科~ 「誰にもできる植皮術」	日本皮膚科学会誌. 124巻13号:2801-2804, 2014

10	西 和歌子	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	坐骨結節部の褥瘡から生じた非クロストリジウム性ガス壊疽の1例	西日本皮膚科. 77巻1号:51-54, 2015
11	沼田 茂樹	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	CD8陽性末梢性T細胞リンパ腫と鑑別を要した皮膚原発節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型の1例	Skin Cancer. 29巻3号:258-263, 2015
12	鈴木 加余子	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	化粧品パッチテスト2012年のまとめ	Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergology. 9巻1号:16-24, 2015
13	西 和歌子	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	化粧品パッチテスト2011年のまとめ	Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergology. 8巻4号:255-263, 2014
14	森田 雄介	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	ゴム関連アレルギー陽性の職業性接触皮膚炎例に対する加硫促進剤非含有ゴム手袋の有用性の検討	日本ラテックスアレルギー研究会誌. 17巻1号:71-78, 2014
15	森田 雄介	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	Japanese standard allergen seriesにおけるゴム関連アレルギーmix陽性21例の臨床的検討	Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergology. 8巻3号:167-174, 2014
16	有馬 豪	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	手術困難な悪性腫瘍の皮膚浸潤病変に対するMohsの変法と亜鉛華デンプン外用療法	Skin Cancer. 29巻1号:68-74, 2014
17	森田 雄介	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	藤田保健衛生大学病院における2006～2010年の職業性接触皮膚炎の38例のまとめ	Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergology. 8巻2号:80-87, 2014
18	小林 東	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学	【生物学的製剤・有用性】〈臨床例〉潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブ投与が壊疽性膿皮症に奏効した例	皮膚病診療. 36巻4号:341-344, 2014
19	水谷 貴宏	藤田保健衛生大学医学部眼科	経皮球後麻酔による眼球穿孔の2症例	眼科臨床紀要 7(4):259-261, 2014
20	武山直志	藤田保健衛生大学医学部救命救急医学講座	新生児, 早期乳児期に発症する重症感染症にヒトパレコウイルス3型を念頭に	日本集中治療医学会雑誌 21:228-230, 2014

21	武山直志	藤田保健衛生大学医学部救命救急医学講座	電解質異常補正法	今日の治療指針 私はこう治療している 110-111, 2014
22	後長孝佳	藤田保健衛生大学医学部救命救急医学講座	多彩な症状を呈した合成カチオン系化合物を含有する危険ドラッグの急性中毒症例	日本臨床救急医学会雑誌18: 546-550, 2015
23	長倉 愛佳	藤田保健衛生大学病院臨床検査部	ベーリング・ネフェロメーターII (BN II) を用いた尿中・髄液中免疫グロブリン濃度測定の基礎的検討	医学と薬学 71 (4) : 731-736, 2014
24	齊藤 翠	藤田保健衛生大学病院臨床検査部	CK-MB蛋白量測定試薬「LタイプワコーCK-MB mass」の性能評価	日本臨床検査自動化学会会誌 39 (3) : 367-370, 2014
25	野村香織	藤田保健衛生大学病院薬剤部	がん化学療法の副作用モニタリングにおける症状チェックシートの活用	日本病院薬剤師会誌 50 (4) : 473-7, 2014

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容  別紙「疫学・臨床研究倫理審査の申請の手引き」、「医学研究倫理審査の申請に関する手順書」をご参照願います。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容  別紙「藤田保健衛生大学病院利益相反委員会規程」ご参照願います。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容  ・ 第1回臨床研究セミナー 講演内容：「臨床研究の企画立案と研究計画書の作成について」吉越 洋文 氏 ・ 第2回臨床研究セミナー 講演内容：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を踏まえたモニタリングについて」菊田 貞雄 氏 ・ 第1回研究倫理セミナー 講義内容：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に対する本学の対応ガイダンス 病理学Ⅱ 松浦 晃洋 教授 他数名	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

①認定／専門医修得コース  
 全人的診療能力を基盤としてより高度な専門領域の知識ならびに技能の修得し、それぞれの学会の認定医、専門医資格の取得を目的とする。  
 内科、外科は“2階立て方式”になっており、内科では「内科認定医」を、外科では「外科専門医」を取得していないとsubspecialtyの専門医認定が受けられない。このため内科および統合外科のプログラムでは、内科認定医、外科専門医制度に準拠した到達目標を設定し、それぞれのsubspecialtyを一定期間ローテーションする研修方式をとる。  
 内科、外科では前述した認定／専門医修得コース修了後、すなわち内科認定医、外科専門医を取得後に“2階立て”の上層にあたるsubspecialtyの専門医認定を目指すことになる。  
 研修は所属科のプログラムに基づいて行う。

②専攻研修コース  
 初期研修修了後に各診療科に入局し、それぞれの学会の専門医制度に対応した研修を行う。内科、外科志望者は前述した認定／専門医修得コース修了後にこのコースで研修し、専門医制度の“2階立て方式”の上層にあたるsubspecialtyの学会専門医認定を目指すことも可能。一方、各診療科では学会専門医の修得のみにこだわらずに後期研修医の自主性を尊重し、そのキャリアデザインをサポートするコースも設定している。  
 研修は所属科のプログラムに基づいて行う。

③自由選択制総合研修コース（臨床助手）  
 患者の抱える問題に対して包括的、全人的に対応できる臨床能力が必要とされ、また専門医としても、関連する周辺領域についての知識、態度、技能を修得していることは円滑な診療を進める上で重要と考えられる。高度で専門的な診療が求められる一方でこのようなより幅広い領域での診療能力の充実も重要な課題であり、多様化した現代医療のニーズに対応するためにこのプログラムを設定。  
 具体的には（1）救急やcommon diseaseなどプライマリ・ケアに対する診療能力の向上、（2）専攻研修に入る前に総合的な診療能力や関連領域での知識、態度、技能の獲得、（3）初期臨床研修期間では未履修ないし不十分な部門についての選択研修などの目的でこのプログラムが有用と考えられる。  
 その他、ローテート期間は各診療科原則3ヵ月以上、ACLS講習会はプログラム期間中に必ず受講、ローテートする診療科や期間は自由に選択でき、予めプログラム期間中のローテート予定を総合研修管理委員会に提出し、その承認を受ける。各ローテート修了時に目標到達度を総合研修管理委員会に提出し、認定を受ける。本コース履修者は病院長より修了認定証を受ける。  
 病院長の直属の医師（臨床助手）とし、総合研修管理委員会にて評価などの統括管理を行う。

2 研修の実績

研修医の人数	104.8人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
岩田 充永	救急総合内科	教授	17年	
尾崎 行男	循環器内科	教授	34年	
今泉 和良	呼吸器内科・アレルギー科	教授	30年	
長坂 光夫	消化管内科	講師	20年	
橋本 千樹	肝胆膵内科	准教授	22年	
岡本 昌隆	血液内科・化学療法科	教授	35年	
河田 健司	臨床腫瘍科	教授	18年	
深谷 修作	リウマチ・感染症内科	准教授	30年	
小出 滋久	腎内科	講師	19年	
鈴木 敦詞	内分泌・代謝内科	教授	27年	
伊藤 信二	神経内科	准教授	24年	
堀口 明彦	総合外科・膵臓外科	教授	31年	
所 隆昌	肝・脾外科	講師	22年	
石田 善敬	上部消化管外科	講師	19年	
花井 恒一	下部消化管外科	准教授	30年	
佐藤 俊充	心臓血管外科・呼吸器外科	講師	20年	
原 普二夫	小児外科	准教授	35年	
日比 八束	内分泌外科	准教授	23年	

内海 俊明	乳腺外科	教授	32年
武山 直志	救急科、災害外傷外科	教授	35年
山下 千鶴	麻酔科	准教授	26年
吉川 哲史	小児科	教授	29年
北島 剛司	精神科	准教授	21年
西尾 永司	産科・婦人科	准教授	18年
長久 伸也	脳神経外科	講師	19年
志津 香苗	整形外科	講師	21年
井上 義一	形成外科	講師	18年
有馬 豪	皮膚科	准教授	16年
日下 守	泌尿器科	教授	24年
剣持 敬	臓器移植科	教授	32年
三宅 悠三	眼科	助教	12年
内藤 健晴	耳鼻咽喉科	教授	37年
外山 宏	放射線科	教授	31年
小林 英敏	放射線腫瘍科	教授	39年
才藤 栄一	リハビリテーション科	教授	35年
黒田 誠	病理診断科	教授	37年
成瀬 寛之	臨床検査科	准教授	22年
東口 高志	緩和医療科	教授	34年
佐藤 公治	口腔外科	准教授	30年
谷口 裕重	歯科	講師	11年
			年
			年
			年
			年
			年
			年
			年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容

【臨床検査部】

- ①精度管理研修会 (精度管理について)
- ②凝固の基礎 (院外講師 アイエルジャパン)
- ③循環器領域検査トピックス
- ④採血についての注意事項
- ⑤夜勤業務基礎 (心電図・臨床化学)
- ⑥夜勤業務基礎 (血液・輸血・一般)
- ⑦私大協研修フィードバック研修会 (ディベートについて)
- ⑧凝固の基礎Ⅱ (院外講師 アイエルジャパン)
- ⑨R-CPC (タコつぼ心筋症を考える)
- ⑩検査室の見える化と収支分析の実際 (院外講師：アボットジャパン)
- ⑪緊急カーターの取り扱い
- ⑫HLAの多様性と検査法 (院外講師：MBL学術)
- ⑬HALテクノロジーの応用 (院外講師：MBL学術)
- ⑭個人情報保護について
- ⑮貧血について
- ⑯防災について (イメージトレーニング)
- ⑰接遇研修：SBER使用した電話対応
- ⑱ディベート研修

【リハビリテーション部】

別紙ご参照ください

【薬剤部】

- ①新人セミナー：新人を対象とした薬効別の薬剤セミナー
- ②薬物療法セミナー：病態・ガイドラインに関する勉強会
- ③論文抄読会：英語論文の抄読
- ④若手研究者養成プロジェクト：若手研究者を対象とした臨床研究教育

【放射線部】

- ①低侵襲画像診断・治療研究会第4回セミナー
- ②低侵襲画像診断・治療研究会第5回セミナー
- ③低侵襲画像診断・治療研究会第6回セミナー

【看護部】

- ・別紙ご参照ください
- ・研修の期間・実施回数

【臨床検査部】

- ①平成26年4月14日 ②平成26年5月12日 ③平成26年 5月28日 ④平成26年6月27日 ⑤平成26年7月23日
- ⑥平成26年7月30日 ⑦平成26年8月25日 ⑧平成26年9月17日 ⑨平成26年10月31日 ⑩平成26年11月12日
- ⑪平成26年12月5日 ⑫平成27年1月9日 ⑬平成27年1月29日 ⑭平成27年2月4日 ⑮平成27年2月4日
- ⑯平成27年3月19日 ⑰平成26年6月23日、10月28日、平成27年1月13日、3月17日
- ⑱平成26年11月7日、11月14日 計：22回

【リハビリテーション部】

別紙ご参照ください

【薬剤部】

- ①新人セミナー：1ヶ月に1回90分
- ②薬物療法セミナー：1ヶ月に1回60分、
- ③論文抄読会：1週間に1回30分
- ④若手研究者養成プロジェクト：研究チームごとに随時

【放射線部】

- ①平成26年10月17日 ②平成26年11月28日 ③平成27年3月27日

【看護部】

別紙ご参照ください

・研修の参加人数

【臨床検査部】

①61名 ②74名 ③95名 ④76名 ⑤67名 ⑥72名 ⑦69名 ⑧64名 ⑨49名 ⑩73名 ⑪59名 ⑫48名  
⑬16名 ⑭61名 ⑮61名 ⑯46名 ⑰52名 ⑱14名 計：1,057名

【リハビリテーション部】

別紙ご参照ください

【薬剤部】

①新人セミナー：10名 ②薬物療法セミナー：70名  
③論文抄読会：20名 ④若手研究者養成プロジェクト：34名

【放射線部】

①12人 ②15人 ③10人

【看護部】

別紙ご参照ください

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【薬剤部】

新人研修：新人の薬剤師業務に関わる研修  
教育研修：接遇・マナーに関わる研修

・研修の期間・実施回数

【薬剤部】

新人研修：着任後1年間随時  
教育研修：1ヶ月に1回1時間

・研修の参加人数

【薬剤部】

新人研修：10名  
教育研修：70名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六條の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 湯澤 由紀夫
管理担当者氏名	事務局長 山田 一俊 総務部長 成田 達哉 医療事務部長 濱野 和治 入院医事課長 田川 良一 外来医事課長 神谷 誠 労務課長 平野 雅大 安全管理室長 伊東 昌広 感染対策室長 石川 清仁 薬剤部長 山田 成樹

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 外来医事課 入院医事課 各診療科 フィルム中央管理室 診療録管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来カルテ、入院カルテ共に電子カルテとしています。</li> <li>・保存期間は外来カルテは最終外来受診日より10年、入院カルテは最終退院日より20年、且つ、最終外来受診日より5年。</li> <li>・X線写真は中央管理しています。</li> </ul>
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事部	
	高度の医療の提供の実績	外来医事課 入院医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	外来医事課 入院医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	外来医事課 入院医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の体制の第一項の各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	安全管理室	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室
	第一項各号及び第九条の二十三	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
	第一項各号及び第九条の二十三	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
	第一項各号及び第九条の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
	第一項各号及び第九条の二十三	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第一項各号及び第九条の二十三	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九条の二十三	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九条の二十三	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第一項各号及び第九条の二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME管理室
	第一項各号及び第九条の二十三	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理室
	第一項各号及び第九条の二十三	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理室
第一項各号及び第九条の二十三	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
閲覧責任者氏名	事務局長 山田 一俊
閲覧担当者氏名	総務部長 成田 達哉
閲覧の求めに応じる場所	事務局 応接室
閲覧の手続の概要	
(1) 管理運営関係、診療関係	
1. 閲覧申し込み	閲覧申込書を総務課に提出する。
2. 承認者	事務局長
3. 閲覧方法	指定した日時に応接室で行う。
4. 返納方法	当日返納とし、総務課へ返納する。

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

## (様式第6)

## 規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <p>医療安全に関する基本的な考え方、医療安全管理に関わる組織及び体制、委員会の設置、安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の設置、教育研修について、医療に係る安全の確保を目的とした改善の為の方策、医療事故発生時の対応における基本的な考え方等。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 30 回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>・医療問題対策委員会 (月1回) 12回：医療事故及び医事紛争の予防対策  ・事故防止対策委員会 (月1回) 12回：事故防止と安全管理上の体制の確保と推進  ・セーフティマネージャー会 (偶数月) 6回：医療現場での安全を推進する</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 26 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>・第1回安全管理研修「医療安全に貢献するパブリック・コミュニケーション戦略」平成26年6月30日  ・第2回安全管理研修「大学病院における肺塞栓予防の取り組み - 院内及び地域医療のマネジメント」平成26年11月10日</p> <p>・医療の質・安全対策部報告会 平成27年3月19日      ・CVC研修会 (年10回)  ・チームSTEEPS研修会 平成26年8月12日      ・PICC研修会 平成26年8月21日、12月15日、16日  ・SBAR研修会 平成26年6月24日、25日、27日      平成27年1月13日  ・KYT研修会 平成27年2月12日、13日、18日      ・緊急集会 平成26年5月20日、8月4日</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・研修会、勉強会を開催する  ・ワーキンググループを立ちあげ実践する  ・セーフティニュース等で周知の徹底する  ・院内のルールや決定事項を巡視等で確認する</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 4 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 4 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専任 ( 4 ) 名 兼任 ( 1 ) 名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>・安全管理報告の内容確認、データの集計、分析  ・安全管理体制について教育  ・事故等に関する診療録や看護記録の確認、指導  ・安全管理に関する委員会の資料、議事録の作成や保存</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	① 有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療関連感染防止に対する基本的な考え方。医療関連感染防止対策の組織に関する基本的事項</li> <li>・ 医療関連感染防止のための研修に関する基本方針。感染症発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>・ 医療関連感染発生時の対応に関する基本方針。医療関連感染防止対策指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・ その他の医療関連感染防止対策推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①医療関連感染の調査、研究、予防対策等の立案に関すること</li> <li>②清潔区域、無菌的医療材料のチェック、清潔状態の保持に関連すること</li> <li>③感染症患者の取扱いに関すること</li> <li>④消毒剤の使用基準等に関すること</li> <li>⑤医療関連感染防止のための職員教育、指導に関すること</li> <li>⑥医療関連感染防止のための情報収集と必要部門への伝達等に関すること</li> <li>⑦その他医療関連感染防止に関すること</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 64 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①新採用者オリエンテーション（医師、研修医、その他職種）（平成26年4月1日、2日、4日）</li> <li>②感染症・抗菌薬セミナー（月2回）</li> <li>③手洗い研修（平成26年4月24日、25日、28日、30日、5月1日）</li> <li>④周術期の抗菌薬予防投与セミナー（平成26年6月1日）</li> <li>⑤口腔ケアセミナー（平成26年8月5日）</li> <li>⑥感染防止対策研修会（平成26年9月4日DVD12回、平成27年1月26日DVD12回、e-ランニング）</li> <li>⑦インフルエンザセミナー（平成26年11月14日）</li> <li>⑧ノロウイルスセミナー（平成26年11月4日）</li> <li>⑨結核セミナー（平成26年12月15日）</li> <li>⑩医療の質・安全対策部報告会（平成27年3月19日）</li> </ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ 無</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟ラウンド（環境ラウンド、臨床ラウンド、救命ラウンド）：それぞれ週1回</li> <li>・ 標準予防策遵守状況確認ラウンド：月1回</li> <li>・ 耐性菌ラウンド（新規MRSA患者等）：報告の翌日</li> <li>・ 抗菌薬使用状況カルテ回診：週1回</li> <li>・ ICT委員会：月2回</li> </ul>	

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 36 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な麻薬の使用について(年2回)</li> <li>・ハイリスク薬の取り扱い・ルールについて (年1回)</li> <li>・安全な麻薬の取り扱い (年1回)</li> <li>・研修医連絡会において「時間外処方箋の疑義照会事例」 (月1回)</li> <li>・病棟薬剤師による病棟別勉強会 (年20回)</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 ○有・無)</p> <p>・業務の主な内容：</p> <p>手順書に基づくチェックリストを用いて実施状況の確認 (年1回)</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 ○有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車運転に関する注意喚起をカルテ上に表示するとともに、薬剤情報提供用紙にも記載するようにした。</li> <li>・小児薬用量の体重あたりの阻止量を設定した。</li> <li>・ザルティア、ザイティガの処方時に類似名称の注意喚起をカルテ上に表示した。</li> </ul>	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無																									
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 110 回																									
<p>・研修の主な内容：</p> <p>平成26年度研修会開催実績</p> <table border="0"><tr><td>研修会内容</td><td>人工呼吸器関連</td><td>:22回</td><td>除細動装置関連</td><td>: 9回</td></tr><tr><td></td><td>閉鎖式保育器関連</td><td>: 2回</td><td>血液浄化装置関連</td><td>: 3回</td></tr><tr><td></td><td>補助循環・人工心肺関連</td><td>: 8回</td><td>輸液関連</td><td>: 5回</td></tr><tr><td></td><td>放射線装置関連</td><td>: 8回</td><td>その他</td><td>:53回</td></tr><tr><td>参加職種・人数</td><td>医師: 70名、看護師:611名、その他:654名</td><td></td><td>合計:1,335名</td><td></td></tr></table>		研修会内容	人工呼吸器関連	:22回	除細動装置関連	: 9回		閉鎖式保育器関連	: 2回	血液浄化装置関連	: 3回		補助循環・人工心肺関連	: 8回	輸液関連	: 5回		放射線装置関連	: 8回	その他	:53回	参加職種・人数	医師: 70名、看護師:611名、その他:654名		合計:1,335名	
研修会内容	人工呼吸器関連	:22回	除細動装置関連	: 9回																						
	閉鎖式保育器関連	: 2回	血液浄化装置関連	: 3回																						
	補助循環・人工心肺関連	: 8回	輸液関連	: 5回																						
	放射線装置関連	: 8回	その他	:53回																						
参加職種・人数	医師: 70名、看護師:611名、その他:654名		合計:1,335名																							
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																										
<p>・計画の作成 (○有)・無)</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>平成26年度医療機器点検実績</p> <ul style="list-style-type: none"><li>人工呼吸器・・・・・・・・・・10,005件(内定期点検347件)</li><li>輸液関連機器・・・・・・・・・・16,545件(内定期点検1,422件)</li><li>循環関連装置(CPB・IABP etc)・・・57件</li><li>透析関連装置・・・・・・・・・・136件</li><li>閉鎖式保育器・・・・・・・・・・31件</li><li>生体情報モニター・・・・・・・・6,545件(内定期点検274件)</li><li>除細動装置・・・・・・・・・・377件(内定期点検83件)</li><li>その他・・・・・・・・・・5,994件</li></ul> <p style="text-align: right;">合計：39,690件</p>																										
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																										
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (○有)・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>厚生労働省および病院機能評価機構ホームページからの医療安全情報の収集および医療機器メーカーからの安全情報の提供。それらの入手情報を病院イントラネットME管理室HPから病院職員への情報提供。取扱い説明書の一元管理。医療機器更新時の機種統一化への努力。院内医療機器不具合報告書の運用およびデータの収集、解析、フィードバック。</p>																										

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期	
評価を行った機関名： 日本医療機能評価機構 評価を受けた時期： 平成23年3月2日～4日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	
・ ホームページにて、外来医師担当表、診療科の案内、先端医療の説明など病院の概要説明を行っている。 ・ 患者さん向けに、病院紹介などの内容のローカルコミュニティ誌を作成し、院内配布している。 ・ 外科医師担当表（診療ガイドブック）を近隣医療機関へ配布し、近隣医療機関で周知してもらっている。 ・ 年に1回「看護の日」、「介護の日」に、患者さん、住民向けに健康に対する講話、介護用品の説明などを行っている。 ・ 年に4回ふたむら山ネットワーク懇談会という懇談会を、近隣の医療機関関係者を対象に開催している。地域の医療機関同士の連携強化、地域の実情と問題点、役割分担などを懇談、検討する目的で行っている。 ・ 学びネット愛知にて、地域住民向けに市民公開講座告知、公開授業を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
・ チーム医療として、褥瘡対策チーム、NSTチーム、緩和ケアチーム、精神科リエゾンチームを設け、複数の診療科が連携して治療にあたっている。 ・ 臓器別に内科と外科が合同カンファレンスを行い、症例検討を行っている。 ・ 手術時、必要に応じて、複数の診療科医師による合同手術を行っている。 ・ SCU病棟（脳卒中ケアユニット）では、神経内科と脳神経外科共同により、集中治療を行っている。	